

## 地域資源の有効活用を目指して

### 積丹GIN報告会

『積丹の気候風土を生かした「スピリッツ開発」によるしごと創生事業』の「積丹GINプロジェクト事業報告会及びマリアージュ交流会」が3月1日、総合文化センターで行われ、町議会議員や関係機関など約45名が参加しました。

### ジン蒸溜所建設へ

昨年3月16日に設立した株式会社スピリット（岩井宏文代表取締役



▲サンプル用スピリッツの試飲

（締役）から、本年度の積丹GINプロジェクトの状況報告がありました。岩井社長からは、「平成31年度に蒸溜所建設、平成32年度の販売を目指す今後のスケジュール」とともに、蒸溜所建設場所を「岬の湯しゃこたん隣接地」とする説明がありました。

当日はサンプルでスピリッツ試飲のほか、マリアージュ試食会も行われました。

サンプルで提供されたスピリッツは、積丹産のアカエゾマツの新芽やハッカをはじめ、道内外のポタニカルを使用した19種類。本年度、同社が独立行政法人・酒類総合研究所（広島県）で行った試験蒸溜で造ったもので「積丹の自然を感じさせる香り」などの声があり、将来のジンへの期待の高まりを感じさせました。

### ジン試飲とマリアージュ期待も高まる

また、マリアージュ試食会では、お宿かさい・食事処純の店・なごみの宿い田の町内3事業者が参加、タラやアンコウ、ニンなど旬の食材を使った9品が紹介されました。

### 夢実現に協力を

最後に岩井社長は、「ジンは積丹の自然イメージに合っている。小樽の日本酒、余市のウイスキーとワインに対し、積丹でジンを造りたい。夢の実現にぜひ協力を。」とアピールしていました。

### 健康食開発事業報告会

『積丹版「健康食」と運動プログラム開発によるしごと創生事業』の事業報告会「積丹健康フォーラム」が3月9日、総合文化センターで行われ、一般町民や関係機関など約63名が参加しました。

### まちを元気に

積丹ゲンキ応援プロジェクト株式会社カネカ（東京都）の藤井健志氏は、希望する町民に還元型コエンザイムQ10のソフ

トカプセルを渡し、その効果を体感していた。たく「積丹ゲンキ応援プロジェクト」の参加者数やその健康状態などの状況が報告されました。

また、東邦大学医学部（東京都）との2つの連携事業についても報告があり、今村晴彦助教からは、町教育委員会受託事業「健康推進サポーター育成事業」の進捗状況を、朝倉敬子准教授からは、平成29年9月と平成30年3月に町内在住、在勤男女60名を対象に行った同大学の「健康・栄養調査（ビタミンD）」についての研究結果について報告されました。

### 愛媛県上島町から特別講演も

当日は特別講演として、「株式会社困ったことはなんですか（愛媛県上島町）」の白川誉氏による、「10年後の日本がここにある！積丹町も上島町も実は最先端のまち」と題した講演も行われました。

講演は、上島町民の困っていることを聞いて、同社が解決手段を検討し、町内外の応援団のチカラを集めて事業化を進めているというもので、空き家を活



▲肺年齢の健康計測

### ホッケとカボチャを使用した健康食を披露

この日は、還元型コエンザイムQ10入りのレトルト食品開発として、町内農水産物を活用した黒ニンニク入りホッケ団子のシチューとカボチャのスープなどの紹介が行われたほか、握力などの筋力測定のほか骨密度や歩行速度、自律神経状態などの健康計測を行い、それぞれ測定結果に一喜一憂していました。

今年は  
3カ国語!

～ 美中2年生制作～

## 積丹町観光ガイドブック完成!!

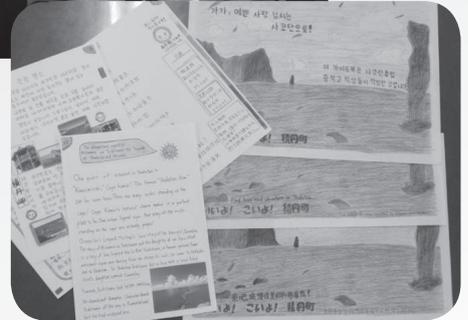
美国中学校2年生12人が、総合的な学習の時間に、積丹町を紹介するガイドブック『いいよ!こいよ!積丹町』を制作し、この度完成しました。

昨年度に続き2回目のガイドブックには、定番の観光スポットから例大祭や味覚祭りなどのイベント、生徒が自ら取材した隠れた名物・郷土料理・語り継がれる伝説に至るまで、幅広い内容がコンパクトにまとめられています。

今回は、生徒が語学や国際感覚を身につけるとともに、町を訪れる外国人向けに、従来の日本語版に加え、英語・中国語・韓国語版も制作しました。

英語への翻訳は、町ALT(外国語指導助手)のリチャード・ディロンさんが指導。中国語・韓国語版は、拓殖大学北海道短大・北海学園札幌高校講師の張健華さんを講師に迎え、それぞれ生徒が翻訳した文章を一つ一つ確認しながら自然な文章にまとめました。

このガイドブックは、観光せんたあで閲覧が可能です。また、4月に修学旅行で東京を訪れる際に、企業訪問等でお世話になった方々や観光客に配布し、広く積丹町をPRする予定です。



隔合同授業を行いました。

昨年12月にはiPadを6台導入し、3校の3年生6人による道德の遠

児童数の少ない野塚・日司・余別小3校の教員を中心に、多様な意見に触れ、学び合いの機会を増やすため、道内外の研究指定校への視察等により指導法や教材研究を行う小規模校活性化推進事業が続けられてきました。

「遠隔合同授業」とは、離れた学校の児童生徒が、テレビやタブレット等のICT機器を利用して一緒に授業を受け、学習効果を向上させるもので、全国の学校で取組みが進んでいます。

児童は、お互いの姿を画面を通じて確認しながら意見を交換しました。教員は手元の用紙を黒板代わりにしてカメラに映し、3校の児童が同じ板書をリアルタイムに見られるよう工夫していました。

授業を行った先生は「通常の授業よりも、児童が意見を伝えようとする意識が向上した。」「6人がそばにるように感じた。」「直接集まるよりも手軽に実施できる。」「授業の良さを挙げていました。」

道德のほか、国語や算数でも手軽に実施できるタブレットを活かし、活用の幅を広げていくことにしています。

## 「平成30年度小規模校活性化推進事業」 タブレットを活用した遠隔合同授業

# 北後志消防組合積丹支署

## 更なる技術向上へ日々訓練！ No.18

### 雪の事故に備えて

北後志消防組合積丹支署(仮谷支署長・署員17名)は、1月26日にキロロリゾートで行われた「北海道雪崩講習会」に2名の職員を派遣し、雪崩が発生する仕組みや雪山での救出法を学びました。

2月18日には、講習会で得



▲雪崩による要救助者検索訓練



▲要救助者掘り起こし作業

た知識を職員へ伝達する「雪崩講習伝達訓練」を同支署裏で行いました。

訓練では、ゾンデ棒(2.8mの細長い棒)を雪に刺し、埋没した人を探査する訓練やシャベルを使用して、効率的に掘り起こす連携訓練を行いました。

雪崩の危険箇所は、全国に2万力所以上もあり、北海道は全国最多の2,500力所

以上もあると言われています。実際に積丹町でも、平成19年3月にスノーモービルが雪崩に巻き込まれる事故が発生しています。

今年は例年より気温が高く、雪解けが急速に進んでいます。屋根からの落雪や雪崩の危険性が高いので、雪の事故に巻き込まれないよう十分注意しましょう。

### お母さんたちに応急手当を覚えて

3月6日、子育て支援センターで「応急救護講座」が行われ、支援センター利用者6名とセンター職員2名に応急手当法などを伝えました。



▲講座に参加した利用者の皆さん

ふと目を離れた際に、子どもが何かにぶつかり大出血。そんな経験をされた方がいるかと思えます。

今回の講習では、そういった事故を想定し、119番通報から「止血処置」、緊急を要する「異物除去法」、もしもの時、子どもの命を繋ぐ「心肺蘇生法」と「AEDの取扱」を行いました。

参加したお母さんたちは、少し照れながらも、真剣に異物除去法や心肺蘇生法を体験し、応急救護について学んでいました。

### 女性防火クラブが災害時の炊き出し訓練

積丹女性防火クラブ連合会(山崎美枝子会長・会員400名)が主催する「交歓会」が3月7日(消防記念日)、積丹支署車庫内で行われ、災害時を想定した炊き出し訓練を行いました。

町内各地区から27名の会員が参加し、役割分担をしながら「豚汁」、「マカロニサラダ」、「白米」の調理が行われました。



▲女性防火クラブ「炊き出し訓練」

同支署には炊き出し用の大鍋が2台、調理器具一式、食器なども用意しており、災害時に対応できるようになっています。会員たちは、普段と勝手の違う大型の調理機器の使用法を一つひとつ確認しながら丁寧に調理を進めていました。

山崎会長は「全国各地で災害が多数発生しています。積丹町でも、いつ発生するかわからないので、災害があった時には、いつでも対応できるように、このような活動を継続的にしていきたい。」と話していました。